

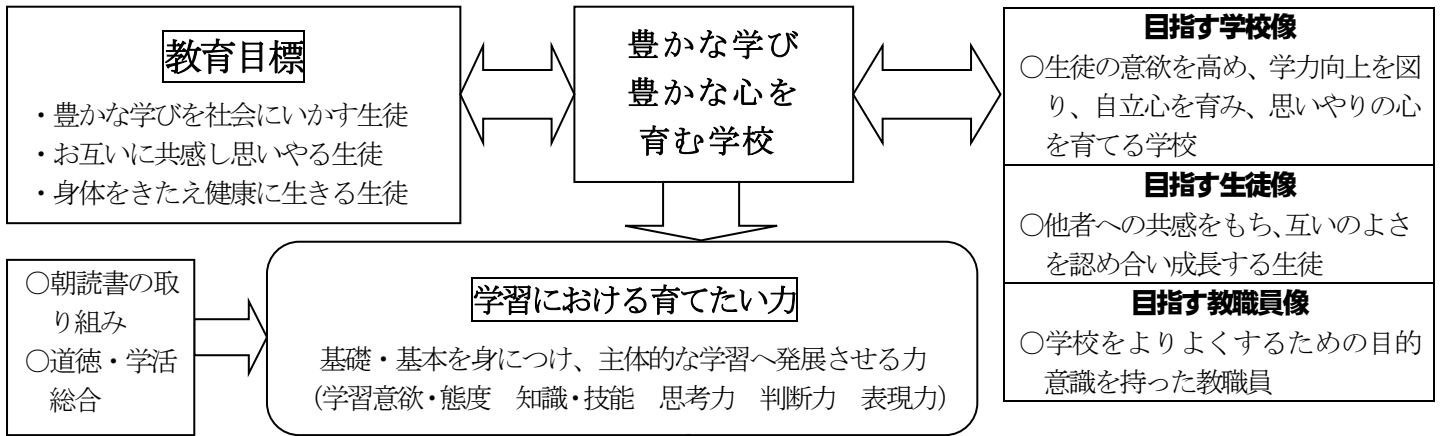
平成29年度

授業改善推進プラン



文京区立音羽中学校

平成29年度 学力向上に向けた全体計画



授業改善への視点・ねらいを明確にした授業の構成、工夫

本年度の重点項目

- 授業改善の推進を目指して、「学びへの意欲・主体性を育てる授業の工夫」に取り組む。
- 学習状況実態調査等の結果に基づき、本校生徒の課題を把握し、解決をはかる授業をすすめる。
- 本校生徒の学習、生活状況を把握し、支援を必要とする生徒に対する理解・支援の方法を深める。

習熟度に応じた 少人数クラス 編成指導 〔数 学〕	学習内容に応じた 少人数クラス 編成指導 〔理 科〕	習熟度をもとにした 少人数クラス 編成指導 〔英 語〕	チーム・ティーチング を用いた一斉授業に よる指導 〔国語 1年〕	一斉授業による指導 〔国語・社会・音楽 美術・保健体育 技術・家庭〕
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の希望も考慮し、実態に合わせた人数でコースを編成する ○ 単元や学期の区切りなどを活用してコース変更を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験や観察等の機会を増やし、学習効果を高め、個々の生徒にきめ細かく対応する ○ グループ学習や課題別学習に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数クラスで「聞く」「読む」「話す」「書く」4技能においてコミュニケーション活動を展開する授業を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の生徒へのつまづきへの対応を図る ○ 二人体制をいかした授業の展開を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体指導の中で個々の学習状況を把握し、効果的な指導を工夫する ○ 助け合い、協力し合っ て共に学力を高めていける環境づくりを行う

「文の京」学ぶカレレベルアップ推進校としての取り組み（音羽学習教室）

- 指導者：本校教諭及び講師・大学生等のボランティア（学校支援地域本部との連携）
- 内 容：① 自習教室：各自のペースですすめる自主学習
② 夏季補習講座1：外部人材も活用した数学・英語（基礎・応用）の補習
③ 夏季補習教室2：本校教諭による補習・質問教室・学習相談
④ 定期考査対策講座：定期考査の出題範囲を中心とした質問教室や課題学習

(国語) 科からみた生徒の現状

国語の学習に対して意欲的な生徒も多く、授業中の発表や話し合い活動等における発言も積極的に出来る。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

- ・本学年は主に「書く」分野を苦手とする生徒が多い。定期テストの記述の問いに未記入の生徒がややいる。
- ・プレゼンテーション等の話すことを得意とする生徒は多いが、内容を聞きとり、情報をメモする力に課題がある。
- ・漢字の読みは好むが、書きを苦手とする生徒がやや見られる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・問いが明確な問題に対しては意欲的に考えられるが、抽象的なものに対しては諦めてしまふことがある。
- ・作文や定期試験における「書く」分野に関して苦手意識をもつ生徒が多い。

教師の指導のあり方

- ・ねらいを明確にすることで見通しをもって学習を行えるようにする。
- ・考えを言葉にして表現する力をつけるために、発表や意見交換の活動を取り入れる。
- ・定期的に漢字小テストを行い、定着化を図る。

(国語) 科の目指す生徒像

学んだことを自分の言語生活に活かし、表現力豊かに伝えることができる生徒。自分の考えをもち、他の人の考えからも学ぼうとする生徒。課題に粘る強く取り組み、力を伸ばしていこうとする生徒。

(国語) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・百人一首の暗唱と書き取り(硬筆)を取り入れ、継続学習による古典学習の基礎の定着を図る。 ・漢字小テストを毎週行い、課題に粘り強く取り組む姿勢や達成することを習慣化する。 ・グループ学習を定期的に取り入れ、話し合いや意見交換を通して自己表現する力を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時、学習のねらいを明確にすることで学習の見通しを立たせ、それらを達成させることで意欲を高める。 ・自己評価や学習のふり返りの機会を各学習ごとに設け、本学習で得たことの実感から学習意欲へと繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器(アクティブボード、書画カメラ等)を用いて図や文字を効果的に見せる。 ・TTで授業を行うことで、理解の遅れの目立つ生徒への個別支援をきめ細かく行える。また、多角的な見方で生徒の様子や授業理解を把握出来る。

(国語) 科からみた生徒の現状

国語の学習に意欲的に取り組み、快活な生徒も多い。表現することに抵抗感が少なく、グループやペアで相互に意見を述べ合うことに慣れている。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

- ・話を聞き、必要に応じて適切な質問をする力がやや弱い。
- ・説明文よりも物語文の方が苦手な傾向があり、特に場面同士を関連づけながら読む力に課題がある。
- ・書く力において、集めた材料を分類・整理する力を身につける必要がある。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・全体として課題の提出に対する意識は高まってきている一方、最後までやりきれない生徒もいる。
- ・グループ学習やペア学習が定着しており、相互に意見を述べ合うことに慣れてきている。

教師の指導のあり方

- ・書くことや話すことの学習において活動の進度に差がある。特に、内容や構成を組み立てる力に課題がある生徒には、個別指導の時間の確保が必要である。
- ・既習事項を活用しながら新たな課題に取り組む授業作りをしていく。

(国語) 科の目指す生徒像

学んだことを自分の言語生活に活かそうとする生徒。自分の考えをもち、表現できる生徒。課題に粘り強く取り組み、やり遂げ、力を付けていく生徒。

教師の手だて

(国語) 科の取り組み 【授業改善の具体策の視点】

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字小テストを毎週実施し、継続的に課題に取り組む力をつける。 ・学習したことを応用する場面を設定することで、基礎的・基本的な力の定着を目指す。 ・新たな学習に入る際に既習事項を簡単に復習することで、螺旋的に力をつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明示することで学習の見通しをもてるようにする。また、生徒の取り組みを丁寧に評価することで、課題に粘り強く取り組む力をつけさせ、意欲につなげる。 ・学習のねらいに対する自己評価や相互評価の機会を設け、達成感につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習やペア学習に継続的に取り組み、互いに学び合い、表現し合えるような場面を設定する。 ・基礎・基本の力を元に思考・判断し、まとめとして表現していくという学習の流れを通じて国語の力を総合的に高めていく。

(国語) 科からみた生徒の現状

主体的に学習にのぞみ、着実な学習を重ねる生徒が増えた。課題に丁寧に取り組み、学習の定着を図っていることがうかがえる。

生徒の
実態

学力調査等の
課題分析

・どの観点も全国、東京の平均を上回っている。
また、無解答率も少なく記述式の問題にも粘り強く向き合う姿勢がうかがえた。
一方、既習の学習の定着という点で、課題がみられた。(漢字の書き取り、古典の学習) 折りにふれての折りにふれての反復学習を継続していく。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

・1時間1時間のねらいを達成しようと意欲をもって学習に取り組んでいる。
・学んだことが学習活動全般に生かされているか、という視点においては、不十分な状況もある。

教師の指導のあり方

・ねらいと方法を明確にして、学習の成果を実感させることが必要である。
・「わかったつもりではなく、十分な理解までに至る学習指導の工夫。
・一人一人の学習成果の把握と評価を丁寧に行う。

(国語) 科の目指す生徒像

学んだことを自分の言語生活に活かし、表現力豊かに伝えることができる生徒。自分の考えをもち、他の人の考えからも学ぼうとする生徒。課題に粘る強く取り組み、力を伸ばしていこうとする生徒。

(国語) 科の取り組み[授業改善の具体策の視点]

教師の
手
だ
て

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した課題設定(の自作の漢字学習プリント・新聞記事の活用・漢字小テスト)により、着実な定着を図る。 関連する既習事項の確認を焦点がずれない範囲で繰り返し行い、徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習前と学習後と比較し、学習の成果を実感できるようにする。 学習後に丁寧な評価とアドバイスをを行い学習意欲を喚起する グループ学習での役割分担や意見交換を通して、自分に自信をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいに応じた授業形態での授業を組み立てること。 効果的なワークシート作りやICT機器、新聞の活用。 1時間の中でできるだけ、「考える、伝える、書く」場面を盛り込むようにする。

(社会) 科からみた生徒の現状

社会的事象への興味・関心はあるが、集中できない生徒が多いため全体的な学力の定着につなげていない。

生徒の実態

**学力調査等の
課題分析**

- ・小学校段階での学習状況に個人差が見られ、知識や理解の定着の差が大きい。
- ・基本的な社会的事象の知識が確実に身につけていない生徒が多い。
- ・さまざまな資料から読み取って考え、表現する力が不足している。

授業等の課題分析

- | 生徒の取り組み状況 | 教師の指導のあり方 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意欲や関心が高く、ほとんどの生徒が楽しく授業を受けているが、一つ一つの作業に時間がかかる。 ・ノートの取り方や発言の仕方などの授業規律ができていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ノートを板書できなかつたり、指示を聞き取れなかつたりしている生徒への個別の対応が必要である。 ・生徒の思考力や表現力を高める授業の工夫や新たな教材開発に取り組み、いろいろな方法で授業に変化をつけるようにする。 |

(社会) 科の目指す生徒像

基本的な知識を確実に身につけ、その知識を活用して、様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒。

(社会) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手立て

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項のポイントをわかりやすく示し、繰り返し発問したり演習したりして定着をはかる。 ・小テストなどを活用し基礎事項の確認をしながら定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを利用して学習の成果を確認したり評価したりすることで意欲を喚起する。 ・ワークやプリントなどのテスト以外の日頃の取り組みについて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の機会を増やし全員を授業に参加させることで活気ある授業にする。 ・資料の読み取り等の課題などで協働学習を取り入れ生徒が学びを共有出来るよう工夫する。

(社会)科からみた生徒の現状

落ち着いて真面目に学習に取り組む生徒が多い。資料を活用して内容をまとめたりする力はあるが、表現する力がやや弱い。すすんで発言・発表をする生徒としない生徒の差が大きい。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

- ・社会的な思考力・判断力・表現力の面で資料からの読み取りはできるが複数の資料の活用や、関連性や問題点を指摘し、説明する記述の力などがやや弱い。
- ・日頃から、真面目に学習に取り組む姿勢があり、基本的な知識の定着を問うものは比較的正答率が高い。

授業等の課題分析

- | | |
|--|---|
| <p>生徒の取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題等にしっかり取り組み、授業に対する意欲や関心も高いが発言につながらない生徒もいる。 ・真面目に取り組むあまり、完答できないと記述や資料活用を難しく考える傾向がある。 | <p>教師の指導のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違えることを怖れる生徒も多くいるので、間違いを怖れず、自由な発言の雰囲気をつくり、途中まででも出来た部分を評価することにつなげていく。 ・協同学習で、生徒同士が共に学び合う取り組みなど、生徒の関心・意欲を高められるような授業の工夫や教材の開発に取り組み、いろいろな方法で授業に変化をつけるようにする。 |
|--|---|

(社会)科の目指す生徒像

基本的な知識を確実に身につけ、その知識を活用して、様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒。

(社会)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに確認プリント等を使い、学習内容の確認をはかる。 ・ワークを活用し、問題を解くことに慣れさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、DVDの視聴や電子黒板などのICTの活用を通して学習意欲を高める。 ・生徒の努力を学習スタンプなどを通して視覚化することで生徒の意欲を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が発言する機会や協同学習を多く取り入れ積極的な参加を促す。 ・視聴覚教材を活用して授業の充実を図る ・生徒の「気づき」を大事にし、授業の中でのつぶやきなどを拾いながら、授業に生かす。

(社会)科からみた生徒の現状

社会的事象への興味・関心が旺盛で、学習意欲も高く、主体性をもって真面目に様々な学習に一生懸命取り組む生徒が多い。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

・社会的な思考力・判断力・表現力の面で資料からの読み取りはできるが社会的事象について複数の資料を関連づけて説明する力がやや弱い。読み取った資料から、問題点等を関連づけて表現する力を伸ばしていくことが今後の課題である。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意欲や関心が高く、ほとんどの生徒が活発に発言し、前向きに授業に参加している。 ・しっかり課題に取り組める生徒が多く自主的な学習にも工夫が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心・意欲を高められるような授業の工夫や教材の開発に取り組み、いろいろな方法で授業に変化をつけるようにする。 ・ノート学習の定着が見られるようになってきたので継続して指導していく。

(社会)科の目指す生徒像

基本的な知識を確実に身につけ、その知識を活用して、様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒。

(社会)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに必ず前時の振り返りと新聞発表を生徒の発表をもとにおこなう。 ・既習内容のフィードバックによって基礎・基本の定着をはかっていくとともに、課題のまとめを行う。 ・必要に応じて小テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、DVDの視聴や電子黒板などのICTの活用を通して学習意欲を高める。 ・毎時間の授業で生徒が発言する機会を多く設定して授業への参加を促す。 ・生徒の努力を学習スタンプの活用を通して視覚化することで生徒の意欲を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の機会を増やせるように授業に発問を多く取り入れ、考えを発表させる言語活動を充実する。 ・視聴覚教材を活用して授業の充実を図り、板書の仕方をわかりやすく工夫する。 ・小グループで意見交換する場面を増やす。

(数学) 科から見た生徒の現状

意欲的に学習に取り組んでいる生徒が多いが、計算力や基礎的な知識が定着していない生徒もあり、理解度の差が大きい。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

- ・定期考査や単元テストでは文章問題に関して、読み解く力が全体的に弱い。
- ・数学的な思考を用いて物事を考え、自分自身の考えを表現することに意欲的である。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・授業規律は概ね保たれている。
- ・授業に対して、主体的に取り組む生徒が多い。
- ・知識・技能を活用する、文章問題を苦手とする生徒が多い。
- ・課題提出については90%以上の生徒ができています。

教師の指導のあり方

- ・教師間で授業規律を確認し、定着を図っている。
- ・授業のなかで生徒が発言や発表する機会を多く設ける。
- ・習熟に応じた指導を実践し、数学を学ぶ楽しさを実感させる。

(数学) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決の過程でその知識・技能を活用しながら、数学的思考を深め、自分の考えを表現できる生徒。

(数学) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟に応じて計算や基本的な問題を繰り返し行う。 ・単元テストや確認テストを定期的実施し、個々の生徒の理解度や課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確にし、授業に取り組みやすくする。 ・数学的活動を生かした指導を一層重視し、数学の楽しさや有用性を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度に応じて、発問の仕方やワークシートなどを工夫する。 ・ICT機器を効果的に活用し、生徒の数学的活動の時間や、学習内容を深める時間を確保する。

(数学) 科からみた生徒の現状

基礎・基本的な知識・技能は身につけているがそれらを活用して問題を解決したり、数学的に表現し説明することに課題がある。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

- ・与えられた問題・資料から必要な情報を正確に取り出す力や比較・関連づけて読み取る力に課題がある。
- ・計算や関数、図形、資料の活用における知識・技能においてはおおむねできている。
- ・平面図形、立体図形の分野に対して苦手意識のある生徒が多い

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・意欲的に授業に参加する生徒が多い。
- ・ペア学習やグループ学習など活発に意見交換ができる。
- ・課題の提出状況が8割と決して高い割合ではない

教師の指導のあり方

- ・生徒の興味・関心を高める教材の提示と各コースの習熟度にあった授業進度、発問を工夫する。
- ・家庭学習も定着を図るために、個別の声かけや補習を設け、できる自信や意欲をもたせていく。

(数学) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決の過程でその知識・技能を活用しながら、数学的思考を深め、自分の考えを表現できる生徒。

教師の手だて

(数学) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別でそのコースにあった授業進度で進め、基礎・基本的な技能の定着を図る ・テストで既習事項についての問題も出し、テスト直しレポートなどの課題を通してできるまで繰り返し問題を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースでは知識・技能を中心に扱い解けることの自信や解くことの楽しさを実感させ、発展コースでは、より発展的な課題を扱い、生徒の知的好奇心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習（言語活動）を通して互いの意見を比較したり、自分と異なる意見について考えたりする活動を通して、数学的な表現の仕方や、問題、資料の読み取る力や取り出す力を伸ばしていく

(数学) 科からみた生徒の現状

基礎的な知識・技能は定着してきているが、それらを用いて応用的に考えたり、自らの考えを説明したりすることに課題がある。

生徒の実態

学力調査等の課題分析

- ・学力テストでは、都の平均を大きく上回った。
- ・主として、計算や関数などの技能に関する問題や、知識・理解を問う問題はおおむね良くできている。
- ・技能や知識を活用し、数学的な見方・考え方を用いて多角的に問題を捉え、解くことについては全体の半数にとどまっているものもあるので、今後の課題である。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・授業や提出物に関する取り組みはとてよく、9割以上の生徒が達成できている。
- ・多くの生徒が自己の理解について客観的に判断し、家庭学習等に生かすことができる。
- ・積極的に発言をする、自分たちの考えを共有する等の生徒が増えた。

教師の指導の在り方

- ・習熟度別学習で、各コースに応じた課題を取り扱っている。
- ・生徒が数学的に考えたり、意見を発表したりする場面を多く設けるようにしている。
- ・生徒の個に応じた指導とコース毎の進度差のバランスが常に課題である。

(数学) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決の過程でその知識・技能を活用しながら、数学的思考を深め、自分の考えを表現できる生徒。

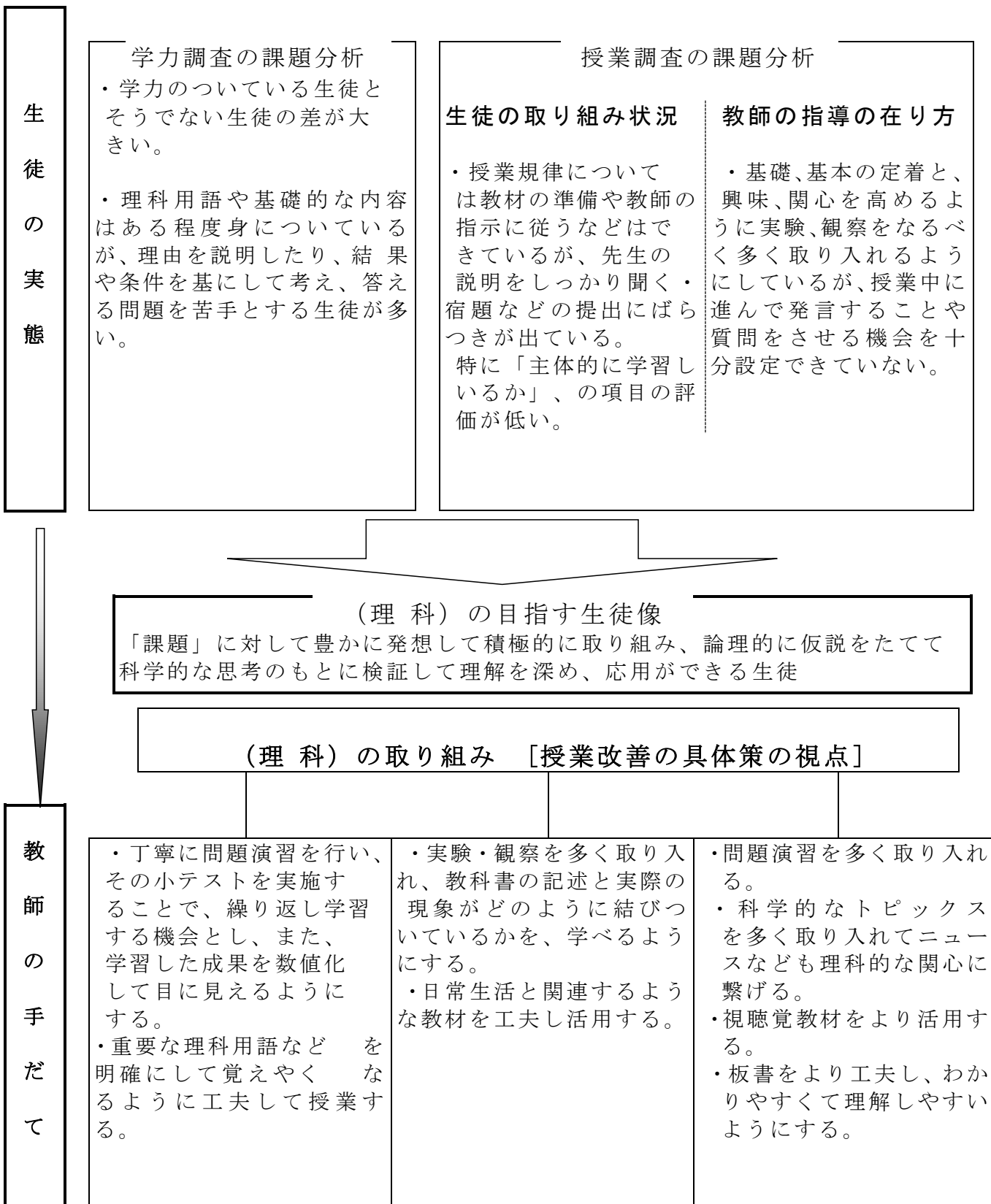
(数学) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・反復学習を行い基礎的・基本的な知識・技能のより一層の定着を図る。 ・新たな内容を学習する時に、既習事項を振り返り関連づけ行う。 ・副教材や課題をしっかりと取り組ませることで、既習事項の理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を活かした指導を一層重視し、数学の楽しさや有用性を実感させる。 ・日々の授業から生徒の学習を評価し、その成果を認める。 ・学習内容の広がりや深まりを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数のグラフや図形、資料の活用などの授業では、ICT 機器を効果的に活用し、視覚的理解を深めさせる。 ・多様な学習形態を用いて、既習事項を活用した課題解決に積極的に取り組ませる。

(理科) からみた生徒の現状

前向きに取り組んでいる生徒が多い。与えられた課題には進んで取り組むが、じっくり考えて解決する姿勢や、より深く追求する姿勢に欠ける生徒いる。



(理科) から見た生徒の現状

関心・意欲は比較的高いが、家庭での復習が不十分な生徒が多い。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

・理科用語や法則を知ることができるとすぐに忘れてしまう。覚えたことを、問題集などを利用して演習する家庭学習の時間が不足している生徒が多い。理科が大好き、実験が大好きで、日頃から様々な自然現象に興味を持っている生徒が1割くらいいる。家庭学習をしていなくてもテストでは高得点を取れている。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況
 ・授業規律はしっかりとしている。
 ・毎時の授業内容は理解している生徒が多い。
 ・授業内容に応じた家庭学習を行わない生徒が多い。

教師の指導のあり方
 ・実験・観察・ICTを多く取り入れ、生徒の興味・関心をより高める授業を、これまでどおり進めていく。
 ・過去に学んだことを小テストなどで復習させる。

(理科) の目指す生徒像

「課題」に対して豊かに発想して積極的に取り組み、論理的に仮説をたてて科学的な思考のもとに検証して理解を深め、応用ができる生徒

教師の手だて

(理)科の取り組み 【授業改善の具体策の視点】

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・導入として、1年生時の内容を復習しながら授業展開し、理解の定着をはかる。 ・少人数クラスの利点を生かし、生徒個々への、きめ細かい対応を行う。	・実験・観察の機会を多くし、自然現象や日常生活との関連を学べるようにする。 ・最新の科学ニュースなどをICTを使って紹介することで、授業への関心・意欲をより高める。	・実験・観察の結果確認や考察など、発表やグループ内での意見交換の機会を増やす。 ・小テストを多く取り入れ、繰り返すことで定着をはかる。

(理科) からみた生徒の現状

関心・意欲は比較的高いが、自分の意見や考えを發表することが苦手な生徒も多い。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

・基礎的な内容や法則についてはある程度身につけているが、概念を説明したり、理由付けをすることを苦手とする生徒が多い。
・1, 2年生での学習内容について、復習が不十分な部分が各単元にみられる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況
生徒の取り組み状況
・授業規律はしっかりしている。
・実験や観察の取り組みも積極的である。
・ノートやレポートもていねいに仕上げています。

教師の指導のあり方
教師の指導の在り方
・実験や観察のまとめ(グラフ作成や図で示す)などを個別に確認する。
・グループの中で互いに予想や結果を發表し、生徒の意見や考えが出るような工夫が必要である。

(理科) の目指す生徒像

「課題」に対して豊かに発想して積極的に取り組み、論理的に予想を立てて科学的な思考のもとに検証して理解を深め、応用ができる生徒

(理科)の取り組み【授業改善の具体策の視点】

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<p>・導入として前時の内容を、小テストを行うなどして復習をくり返しながら授業展開し、理解の定着をすすめる ・少人数クラスの利点を生かし、生徒個々への指導・助言を行う。</p>	<p>・最新の科学的なトピックスなどを電子黒板の画像や動画を利用して紹介し、授業への関心・意欲を高める。 ・身近な自然現象や日常生活と関連づけた実験・観察の機会を多く設定する。</p>	<p>・問題演習など、アウトプットの場を増やし、くり返すことで理解の定着を図る。 ・意見發表の時間を設定し、自分の意見をまとめたり、他のグループの結果を聞いて自分の意見を考察するように取り組ませる。</p>

（英語）科からみた生徒の現状

英語に対する苦手意識はあまりなく、活発に意欲的に授業に臨んでいる。聞く、話すことには慣れているが、書く活動が不足している。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・話すこと、聞くことに関しては大変意欲的で、能力も高い。
- ・単語は知っていても、綴りは曖昧である。
- ・文構造の理解が不十分な生徒がいる。
- ・be動詞と一般動詞の運用の仕方で混乱している。

授業等の課題分析

- | 生徒の取り組み状況 | 教師の指導のあり方 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・話すこと、聞くことに対する意欲が高く、積極的に発言する生徒が多いが、書く練習が不十分である。教科書本文の転写などを多く取り入れる必要がある。 ・音読練習への取り組みは意欲的だ | <ul style="list-style-type: none"> ・が、家庭での復習が十分ではない。音読カードを使用し、練習を積ませる。 ・即興での自己表現力を高める活動を取り入れ、間違いを恐れず、コミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。 ・口頭drillが不足している。 |

（英語）科の目指す生徒像

言語や文化、人々の生活に関心を持ち、共感する感性と、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育む。特に、「話す、書く」活動を通じて、自分の考えをもち発信できる生徒。

（英語）科の取り組み 【授業改善の具体策の視点】

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の音読を確実にし、読んだら覚えて書く、の手順を徹底する。書く量を増やす。 ・スペリングコンテストを実施し、語彙力の強化を図る。 ・单元ごとに小テストを行い、確認と復習の機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動の工夫。歌、映画、bingo、chatなど生徒が楽しく授業に臨める雰囲気作り。 ・振り返りカード、スタンプカードなど学習の軌跡や結果が目で見えてわかるようにする。 ・自己表現活動で自信をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ活動を取り入れ、仲間と高め合う機会をもつ。 ・自作の教材をシリーズ化し、理解しやすい、先が予測しやすい工夫をする。 ・生徒が興味、関心をもてるような題材を選ぶ。

(英語) 科からみた生徒の現状

歌や映画、外国人講師との交流など、生の英語を聞くことや文化に関心がある。基礎的な文法事項の習得に課題がある。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・基本的な文法事項や語彙の知識はあるが、活用段階になると、混乱が生じる生徒が多い。
- ・聞き取りや自己表現問題については力がついていない。
- ・読みとりは楽しんで読み進めることができているが、表や図の読みとりはやや課題が残る。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
<ul style="list-style-type: none"> ・映画を上映し、字幕から日本語と英語について考える授業を取り入れた結果、これまでよりも授業を楽しみにする生徒が増えた。 ・グループによるスキット発表に意欲的に取り組み、暗唱する生徒が約9割であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法理解や語彙の小テストを3回行ったが、基礎的事項の定着は十分ではなかった。 ・家庭学習を行う取り組みをしているが、提出率は4割程度であり、自律的な学習への工夫がさらに必要である。

(英語) 科の目指す生徒像

言語や文化、人々の生活への関心と共感を持ち、問いを持つ思考力を持ち、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育む。

特に「話す、書く」活動を通じて、自分の考えを持ち、発信できる生徒。

教師の手立て

(英語) 科の取り組み 【授業改善の具体策の視点】

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・小テストで学習の習慣化を図る他、家庭学習の指導を通じて個に応じた課題を出し、意欲を引き出す工夫をする。 ・教科書の音読や筆写に力点を置き、家庭学習の習慣化を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の題材面を深める教材を使用し、言語と文化への興味を高める。 ・自己表現活動を積極的にを行い、外国語を学ぶ意味を実感させる。 ・映画や歌で生の英語や文化にふれ、楽しみながら、言葉と生活を結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループなどの形態を用いた協同学習を活用し、やりとりのある授業、助け合い、高めあう学習を行う。 ・参加型の授業になるよう、生徒が提案し、意見を言い合う時間を多くする。

（英語）科からみた生徒の現状

授業や課題には、少人数授業、一斉授業共に大変真面目に意欲的に取り組む生徒が多い。

生徒の
実態

学力調査等の 課題分析

・ 1学期定期考査の「外国語表現の能力」の問題で、「流暢性」と「正確性」の2つの観点から採点を行ったが、結果の「正確性」に課題が残った。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

・ 4コーナースなどグループにおける協同学習は意欲的であるが、個人で学習する場合に作業が滞る生徒がいる。自立した学習習慣が不足している。

教師の指導のあり方

・ 学習者が学び方を選択できるように提示する。
・ 授業者がファシリテーターになるよう心がける。

（英語）科の目指す生徒像

言語や文化、人々の生活への関心と共感を持ち、問いを持つ思考力を持ち、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育む。
特に「話す、書く」活動を通じて、自分の考えを持ち、発信できる生徒。

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<p>・ 「正確性」を増すことができるような教材、場面を工夫することが必要である。それを強調しすぎると間違いを恐れて「流暢性」が無くなるので、適度なバランスが必要である</p>	<p>・ 自立した学習者を育てるために、学び方を複数提示し、選択できるようにする。</p>	<p>・ 協同学習のプロジェクトを学期に1回は実施する。</p>

（音楽）科からみた生徒の現状

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、その意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

生徒の実態

**実技テスト等の
課題分析**

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、その意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

- ・読譜力やリコーダーの運指は大半の生徒が理解しているが練習量の違いで演奏には差がある。
- ・記号の知識、理解や表現力には、個人差がある。
- ・音楽の表現力は学年、クラスによって違う。
- ・実技、鑑賞すべてにおいて前向きに取り組んでいる。

授業等の課題分析**生徒の取り組み状況**

- ・全体的にまじめに取り組むが、前向きさは、個々に差がある。
- ・入学前から苦手意識があったり、できないうちに諦めてしまう傾向がある。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・諦めずに自ら何度も繰り返し練習するような助言や指導の工夫を考えていく。
- ・言葉の意味を感じ、音楽を豊かに表現する助言を与えていく。

（音楽）科の目指す生徒像

音楽に興味関心と自ら学ぼうという姿勢をもち、一つのものをみんなで完成させる達成感と、音楽を表現する喜びを感じることができる生徒。

教師の手だて

（音楽）科の取り組み 【授業改善の具体策の視点】

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し練習することでリコーダーの運指を理解し曲を仕上げる。 ・自分のパートの役割を考え、美しいハーモニーと言葉の意味を考え音楽的な豊かな表現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2重奏などを用いてアンサンブルの楽しさと合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気と課題を見つけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で一斉にパート練習を行い、時間を有効に使う。 ・生徒自身が目標と課題を考え、それに近づくような助言を与え少しでも完成度の高いものを目指す。

(音楽)科からみた生徒の現状

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、その意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

- ・読譜力やリコーダーの運指は大半の生徒が理解しているが練習量の違いで演奏には差がある。
- ・記号の知識、理解や表現力には、個人差がある。
- ・音楽の表現力は学年、クラスによって違う。
- ・実技、鑑賞すべてにおいて前向きに取り組んでいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・全体的にまじめに取り組むが、前向きさは、個々に差がある。
- ・できないとすぐに諦めてしまう傾向がある。
- ・リーダーは徐々に育ってきている。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・諦めずに自ら何度も繰り返し練習するような助言や指導の工夫を考えていく。
- ・音楽の流れや言葉の意味を感じ、音楽を豊かに表現する助言を与えていく。

(音楽)科の目指す生徒像

音楽に興味関心と自ら学ぼうという姿勢をもち、一つのものをみんなで完成させる達成感と、音楽を表現する喜びを感じることができる生徒。

教師の手立て

(音楽)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し練習することでリコーダーの運指を理解し曲を仕上げる。 ・自分のパートの役割を考え、旋律の流れや美しいハーモニーと、言葉の意味を考え音楽的な豊かな表現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動や2重奏などを用いてアンサンブルの楽しさと合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気と課題を見つけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で一斉に班練習やパート練習を行い、時間を有効に使う。 ・生徒自身が目標と課題を考え、それに近づくような助言を与え少しでも完成度の高いものを目指す。

(音楽)科からみた生徒の現状

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、その意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

生徒の実態

実技テスト等の課題分析

- ・読譜力やリコーダーの運指は大半の生徒が理解している。自主的な練習量が増えた。
- ・記号の知識、理解や表現力も個人差はあるが向上している。
- ・音楽の表現力は学年、クラスによって違う。
- ・実技、鑑賞すべてにおいて前向きに取り組んでいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・全体的にまじめに取り組む、前向きさは、多少差はあるものの全員が熱心に練習に取り組んでいる。
- ・あきらめてしまう傾向が減り、やれば良いものになると目標をもって取り組んでいる。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・諦めずに自ら何度も繰り返し練習するような助言、指導の工夫を考えていく。
- ・旋律の流れや言葉の意味を感じ、音楽を豊かに表現する助言を与えていく。

(音楽)科の目指す生徒像

音楽に興味関心と自ら学ぼうという姿勢をもち、一つのものをみんなで完成させる達成感と、音楽を表現する喜びを感じることができる生徒。

(音楽)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し練習することでリコーダーの運指を理解し曲を仕上げる。 ・自分のパートの役割を考え、旋律の流れや美しいハーモニーと言葉の意味を考え音楽的な豊かな表現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2重奏などを用いてアンサンブルの楽しさと豊かな表現、合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気と課題を見つけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2重奏などを用いてアンサンブルの楽しさと豊かな表現、合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気と課題を見つけさせる。

美術

科

1

年

担当者 石井 元

(美術) 科からみた生徒の現状

授業に集中して意欲的によく取り組んでいる。全体としての取り組みはよい。自分の思いを表現する力が不足している生徒もいるが、あきらめずに積極的に制作しようと取り組んでいる。

生徒の実態

実技テスト等の課題分析

- ・基礎的・基本的な知識や技術はよく理解している。鑑賞問題もよく理解している生徒が多く、前向きに取り組もうとしている様子が見える。
- ・作品の完成度が高く達成感を味わい自分なりに満足している。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にまじめに取り組む、アイデアや方法を工夫し考えて丁寧に制作している。 ・学習した知識や技術を生かして制作しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。 ・発言や質問をしやすい授業の工夫をし、発想や構想の拡がりを図る。個々のつまづきや問題点に助言をし、技能に応じた表現を楽しめる工夫をする。

(美術) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、多種多様な表現の美しさを理解して発想を豊かにし、自分の考えや思いを工夫改善しながら表現することができる生徒。

教師の手立て

(美術)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・技法や道具の使い方など課題に応じて身につけさせる。 ・作品鑑賞で美術の味わい方を学習させ、潤いのある生活意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材の触感や道具の扱いを楽しむ時間の工夫をし、造形への構想を広げる発言や質問を導き、工夫や改善の手立てをつかませ、達成感を味わわせる。 ・的確なアドバイスと丁寧な評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を明確にするため、板書の工夫をし本時の展開をわかりやすくする。 ・個人差に応じた個別指導を行う。 ・ICT機器の活用

(美術) 科からみた生徒の現状

授業に集中して意欲的によく取り組んでいる。全体としての取り組みはよい。自分の思いを表現する力が不足している生徒もいるが、あきらめずに積極的に制作しようとしている。

生徒の
実態

実技テスト等の 課題分析

基礎的・基本的な内容はほぼ定着している。鑑賞問題は関心に差がみられ、理解が十分でない生徒もいる。技能問題では丁寧に取り組む生徒が多い。

- ・作品の完成度も高く、達成感を味わい、個々に満足いく結果を生み出している生徒が多い。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技術を理解し、豊かな発想を活かし、作品完成に向けて前向きで、制作によく取り組んでいる。 ・一部の生徒は積極的によく発言し授業の雰囲気をよくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や質問をしやすい授業の工夫をし、発想や構想の拡がりを図る。 ・個々の問題点に適切に助言をし、感性や技能に応じた表現を楽しめる工夫をする。 ・悩み躓いているところへタイムリーなアドバイス、支援。

(美術) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、多種多様な表現の美しさを理解して発想を豊かにし、自分の考えや思いを工夫改善しながら表現することができる生徒。

教師の
手
だ
て

(美術) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・技法、道具の使い方などを課題に応じて身につけさせる。 ・作品鑑賞で美術の味わい方を学習させ、潤いのある生活意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した技法、技術、発想力を活かし、造形への構想を広げる。 ・発言や質問を導き、工夫や改善の手立てをつかませる。 ・的確なアドバイスと丁寧な評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の目標を明確にして、板書の工夫をし本時の展開をわかりやすくする。 ・個人差に応じた個別指導を行う。 ・手本を充実させる。 ・ICT機器を活用する。

（美術）科からみた生徒の現状

多くの生徒が授業に対し関心意欲が高く、前向きによく取り組んでいる。一部の生徒は積極的に発言し、和やかに授業が進んでいる。

生徒の
実態

実技テスト等の 課題分析

・前向きによく取り組み、知識的な問題は、達成できている生徒が多くみられる。ワークシート、作品の点検採点を繰り返し行い、完成度が高まる生徒が多く、同時に達成感を味わうことができている。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況
 ・ごく一部生徒に諦めを感じるが、多くの生徒が創意工夫して作品完成に向けて前向きに取り組んでいる。自分なりの良い作品作りを目指し、評価を繰り返すことで、完成度を高めようと努力している。

教師の指導のあり方
 ・発言や質問をしやすい授業の工夫をし、発想や構想の拡がりを図る。個々の問題点を適切に助言し、感性や技能に応じた表現を楽しめる工夫をする。何度でもタイムリーに評価することで作り手の気持ちを上げる。

（美術）科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、多種多様な表現の美しさを理解して発想を豊かにし、自分の考えや思いを工夫改善しながら表現することができる生徒。

教師の
手
だ
て

（美術）科の取り組み 【授業改善の具体策の視点】

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技法や、道具の使い方など課題に応じて身につけさせる。 ・作品鑑賞で美術の味わい方を学習させ、潤いのある生活意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞を関連づけ表現の多様さに気付かせ、発想や構想を広げる。 ・発言や質問を導き、工夫改善の手立てをつかませる。 ・的確なアドバイスと丁寧な評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の目標を明確にして、板書の工夫をし本時の展開をわかりやすくする。 ・個人差に応じた個別指導を行う。 ・意見交換や相互観賞で、発想の広がりを図る。 ・ICTの活用

（保健体育）科からみた生徒の現状

・運動が好きな生徒が多く、様々な運動に対して意欲的に取り組み向上心も強い。一方で運動経験の少なさからか、基本的な運動能力に欠けている生徒も少なくない。

生徒の実態

実技テスト等の 課題分析

・基礎体力や基礎的なスキルに劣る生徒が多い。
・体育実技を楽しみにしている生徒が多い。
・お互いに評価し合うことができる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

・課題に対して、取り組む姿勢が見られる。
・周囲の状況を見て模倣するところがあり、自己の課題を見つけていく姿勢が必要。

教師の指導のあり方

・各自の課題を認識できるように指導、助言していく。

（保健体育）科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教師の手だて

（保健体育）科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じたお互いの学びあいと規範意識の定着をめざす。 ・振り返りを行うことで、課題を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通して、お互いを尊重し高め合い協調性とお互いの喜びを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な助言や工夫個別支援が必要な生徒への手助け。 ・グルーピングの工夫 ・ICT機器の利用

(保健体育)科からみた生徒の現状

・運動が好きな生徒が多い。様々な種目に対して意欲的に取り組み、向上心もある。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

・運動が得意な生徒が、苦手な生徒に対しアドバイスをするなど、お互いに話し合いながら進めていくことができる。
・様々な種目を通して基礎体力や基礎的な運動を高める必要がある。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

生徒の取り組み状況
・全体的に取り組む姿勢は良好である。しかし、学んだことや振り返りについて、十分に記入できている生徒とそうでない生徒の差がある。
・集団の中で、指示を聞いて、理解し行動に移せない生徒も多少いる。

教師の指導のあり方

教師の指導のあり方
・運動量を確保するために、簡潔にわかりやすい説明や指示の工夫をする。記入しやすい学習カードの工夫が必要である。
・巡回をしながら、個々への指導や助言をしていく。

(保健体育)科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

(保健体育)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 準備体操に加え補強運動を継続して行う 段階的な指導をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の内容を理解させた上で、目標を設定させる。 グループ活動を通じて、互いを高め合い「できる」喜びを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な助言や工夫する。 見本や映像を使用してイメージを持たせ技能の習得を促す。

（保健体育）科からみた生徒の現状

・運動が好きな生徒が多く、様々な運動に対して意欲的に取り組むことができる。その反面、集団行動の苦手な生徒が多く、しっかりとした授業規律の確立と、授業への興味関心を高められるような工夫が必要である。

生徒の実態

**実技テスト等の
課題分析**

・基礎体力や基礎的なスキルに劣る生徒が多い。
・体育実技を楽しみにしている生徒が多い。
・お互いに評価し合うことができる。

授業等の課題分析**生徒の取り組み状況**

・課題に対して、取り組む姿勢が見られる。
・じっくりと考えて課題に取り組む事が苦手な生徒が多い。

教師の指導のあり方

・各自の課題を認識できるように指導、助言していく。
・お互いに教え合う場面を意図的につくる。

（保健体育）科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教師の手だて

（保健体育）科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じたお互いの学びあいと規範意識の定着。 ・振り返りを行うことで課題を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通して、お互いを尊重し高め合い協調性とお互いの喜びを感じさせる。 ・それぞれの技能レベルに応じた課題を設定し、取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な助言や工夫個別支援が必要な生徒への手助け。 ・グルーピングの工夫 ・ICT機器の利用

(保健体育)科からみた生徒の現状

・運動に対する興味・関心は高いが、運動が得意な生徒と苦手な生徒の差がある。全体の中で集中して話が聞けない生徒も見られる。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

・どの種目に対しても積極的に取り組んでいるが、得意な生徒と苦手な生徒との差がある。しかし、苦手な種目にも努力する姿勢がうかがえる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

・どの種目に対しても、取り組む姿勢は良好である。
・集中力が続かない生徒もいる。

教師の指導のあり方

・個別支援が必要な生徒へは、巡回時に声掛けや段階に応じた課題を設定するなどの配慮が大切。

(保健体育)科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

(保健体育)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・習熟度に応じた段階的な指導。	・毎時間、ねらいに対する課題を立てさせ、技能向上の過程での現在の自分の位置づけを把握させる。	・具体的な助言や工夫 ・学習カードを使用した振り返りを行い、課題を設定させる。 ・グループ活動を取り入れ課題解決のための話し合い、教え合いを促す。

(保健体育)科からみた生徒の現状

・運動が好きな生徒が多く、様々な運動に対して意欲的に取り組むことができる。何事にも前向きでチャレンジしていける生徒が多い。またじっくりと考えて課題に取り組むことができる。

生徒の実態

実技テスト等の 課題分析

・運動能力の高い生徒と低い生徒に幅がある。
・体育実技を楽しみにしている生徒が多い。
・お互いに評価し合うことができる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

・個々の技能レベルにあった課題に取り組む姿勢が見られる。
・お互いに教え合う人間関係ができている。

教師の指導のあり方

・各自の課題を認識できるように指導、助言していく。
・お互いに教え合う場面を意図的につくる。

(保健体育)科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教師の手だて

(保健体育)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じたお互いの学びあいと規範意識の定着。 ・振り返りを行うことで課題を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通して、お互いを尊重し高め合い協調性とお互いの喜びを感じさせる。 ・個々に課題を設定し、自分の技能に応じた課題設定をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な助言や工夫個別支援が必要な生徒への手助け。 ・グルーピングの工夫 ・ICT機器の利用

(保健体育)科からみた生徒の

運動に対する興味・関心が高く、向上心もある。種目によって運動能力の差がある。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

- ・1.2年に各種目の基本を教わっているため、応用した技能を取り入れ、運動の楽しさや意欲を高めていく必要があると思われる。
- ・お互いに、話し合い、教え合いながら取り組んでいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・多くの生徒が前向きに取り組み、発言も多い。
- ・積極的に質問にくる生徒も多い。

教師の指導のあり方

- ・全体に課題を設定する。課題をクリアできた場合には個々に課題を提案し、それに対して取り組みをさせる。

(保健体育)科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

(保健体育)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・運動量を多く確保する。 ・習熟度に応じた段階的指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1.2年次より少し高めの課題設定にし、興味や関心、楽しさが高まるように工夫する。 ・学習の内容を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用した技能の習得ができるよう、練習の工夫をする。 ・振り返りを使用した個々の課題への取り組み。 ・グループ活動を通じた話し合いや教え合いの時間を設ける。

(技術・家庭) 科からみた生徒の現状

多くの生徒が、関心・意欲が高く、全体として学習への取り組みが良い。特に作業については、集中して学習に励んでいる。支援が必要な生徒も各クラスにいる。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

- ・落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。
- ・基礎的、基本的な内容はほぼ定着しているが、工夫、創造する内容や活用については課題が見られる。

授業等の課題分析

- | 生徒の取り組み状況 | 教師の指導のあり方 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席、持ち物など、授業規律は定着している。 ・進んで発言したり質問したりすることができない生徒が若干いる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。 ・一方的な説明にならず、生徒が「参加している」と思えるような場面を多く設ける。 ・授業内容の一つ一つを具体的にイメージできるように指導するようにしている。 |



(技術・家庭) 科の目指す生徒像

- ・ものづくりの基礎
- ・製作を通し、やり遂げる力や責任感、協調性を身につけた生徒。

教師の手だて

(技術・家庭) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発問を工夫し、ワークシートなどに繰り返し取り組む時間を設ける。 ・生活の中で興味・関心をもち活用できる教材の工夫・開発に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器を効果的に活用し、基礎的な知識を効果的に理解させるとともに、実習の時間を多くしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を随所に取り入れ、互いの意見や技術の中から新たな気づきや発見を得られるようにする。

(技術・家庭) 科からみた生徒の現状

ほとんどの生徒が、授業に真剣に取り組んでいるが、授業内容を理解したつもりになっている生徒が見られる。製作・実習には意欲的になれるが、一部に集中度が低く、集中力が長続きしない生徒がいる。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

- ・基礎的、基本的な内容はほぼ定着しているが、工夫、創造する内容や活用については課題が見られる。
- ・落ち着いて授業に取り組むが、理解につながっていない生徒がいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席、持ち物など、授業規律は定着している。 ・積極的な活動をしていても理解につながっていない生徒がいる。 ・進んで発言したり質問したりすることができない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。 ・一方的な説明にならず、生徒が「参加している」と思えるような場面を多く設ける。 ・授業内容の一つ一つを具体的にイメージできるように指導するようにしている。

(技術・家庭) 科の目指す生徒像

- ・ものづくりの基礎的な知識・技術を習得し、生活に活用できる生徒。
- ・製作を通し、やり遂げる力や責任感、協調性を身につけた生徒。

(技術・家庭) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発問を工夫し、ワークシートなどに繰り返し取り組む時間を設ける。 ・日常生活の中でありがちな事例を授業で取り上げ、技術・家庭科の学習内容が生活に密着しているという実感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器を効果的に活用し、基礎的な知識を効果的に理解させるとともに、実習の時間を多くしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を随所に取り入れ、互いの意見や技術の中から新たな気づきや発見を得られるようにする。

(技術・家庭)科からみた生徒の現状

ほとんどの生徒が、授業に真剣に取り組んでいるが、授業内容を理解したつもりになっている生徒が見られる。製作・実習には意欲的になれるが、一部に集中度が低く、集中力が長続きしない生徒がいる。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

- ・基礎的、基本的な内容はほぼ定着しているが、工夫、創造する内容や活用については課題が見られる。
- ・落ち着いて授業に取り組むが、理解につながない生徒がいる。

授業等の課題分析

- | 生徒の取り組み状況 | 教師の指導のあり方 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席、持ち物など、授業規律は定着している。 ・積極的な活動をしていても理解につながない生徒がいる。 ・実生活とリンクして考え、学習を実感するに至っていない生徒がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。 ・一方的な説明にならず、生徒が「参加している」と思えるような場面を多く設ける。 ・授業内容の一つ一つを具体的にイメージできるように指導するようにしている。 |

(技術・家庭)科の目指す生徒像

- ・ものづくりの基礎的な知識・技術を習得し、生活に活用できる生徒。
- ・製作を通し、やり遂げる力や責任感、協調性を身につけた生徒。

(技術・家庭)科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発問を工夫し、ワークシートなどに繰り返し取り組む時間を設ける。 ・日常生活の中でありがちな事例を授業で取り上げ、技術・家庭科の学習内容が生活に密着しているという実感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器を効果的に活用し、基礎的な知識を効果的に理解させるとともに、実習の時間を多くしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を随所に取り入れ、互いの意見や技術の中から新たな気づきや発見を得られるようにする。